

平成 27 年 8 月 6 日
東部農林振興センター出雲農業普及部

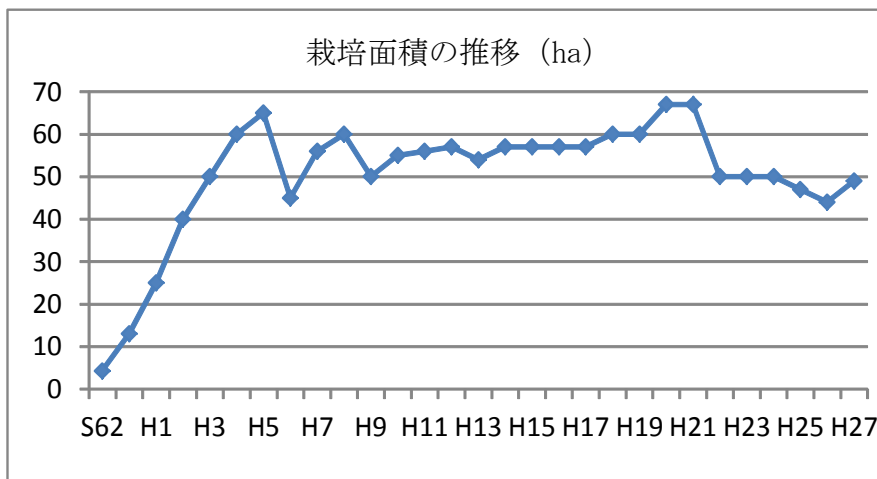
標 題	米価下落に対応し「かあちゃんブロッコリー」は栽培面積拡大
-----	------------------------------

(ダイジェスト)

J Aしまね出雲ブロッコリー部会の 27 年秋冬作栽培予定面積は、前年を 5 ha 上回る 35 ha になる見込みです。前年の米価下落や春作の高品質高単価を受けて、集落営農組織だけでなく、個別農家でも栽培面積を増やされます。

J Aしまね出雲ブロッコリー部会で栽培されるブロッコリーは、栽培者の中心が元気な女性たちであったことから、「かあちゃんブロッコリー」の愛称で親しまれ、品質の良さが評価されて最盛期には 67 ha まで拡大しました。

しかし、近年は栽培者の高齢化が進展したことや W C S 用稲の作付が増えたことなどが影響して、26 年は 44 ha まで縮小していました。



8 月から定植が始まる秋冬作の栽培予定面積は、「前年を 5 ha 上回る 35 ha」との取りまとめ結果が出ました。出荷量は 260 t を目標とし、春作と併せた 27 年の栽培面積は 49 ha となる見込みです。

この拡大の要因は、26 年産米価の下落と 27 年春作の好成績にあるとみられています。

米価下落に対しては、2 月から経営の安定化を図ろうとする集落営農組織を対象に、J A とともに栽培を推進した結果、新規 2 つの組織を含む 6 組織で取り組まれる予定です。

また、5～6 月収穫の春作は、日ごろの徹底された栽培管理と好天に恵まれて、締りの良い高品質な仕上がりとなりました。さらに、出荷時期には他の野菜が品薄だったこともあって、高単価（26 年春作対比 122%）で取引され、出荷量は 97 t（同 103%）と微増だったものの、販売額は 4568 万円（同 125%）となりました。その結果、個々の栽培者も面積拡大に積極的な状況です。

当普及部としては、今年が産地の拡大に向けた好転の年となるように、元気なかあちゃんたちとともに引き続き活動していきたいと思ひます。

担当者	出雲南地域振興課	原千明	TEL0853-30-5605
-----	----------	-----	-----------------